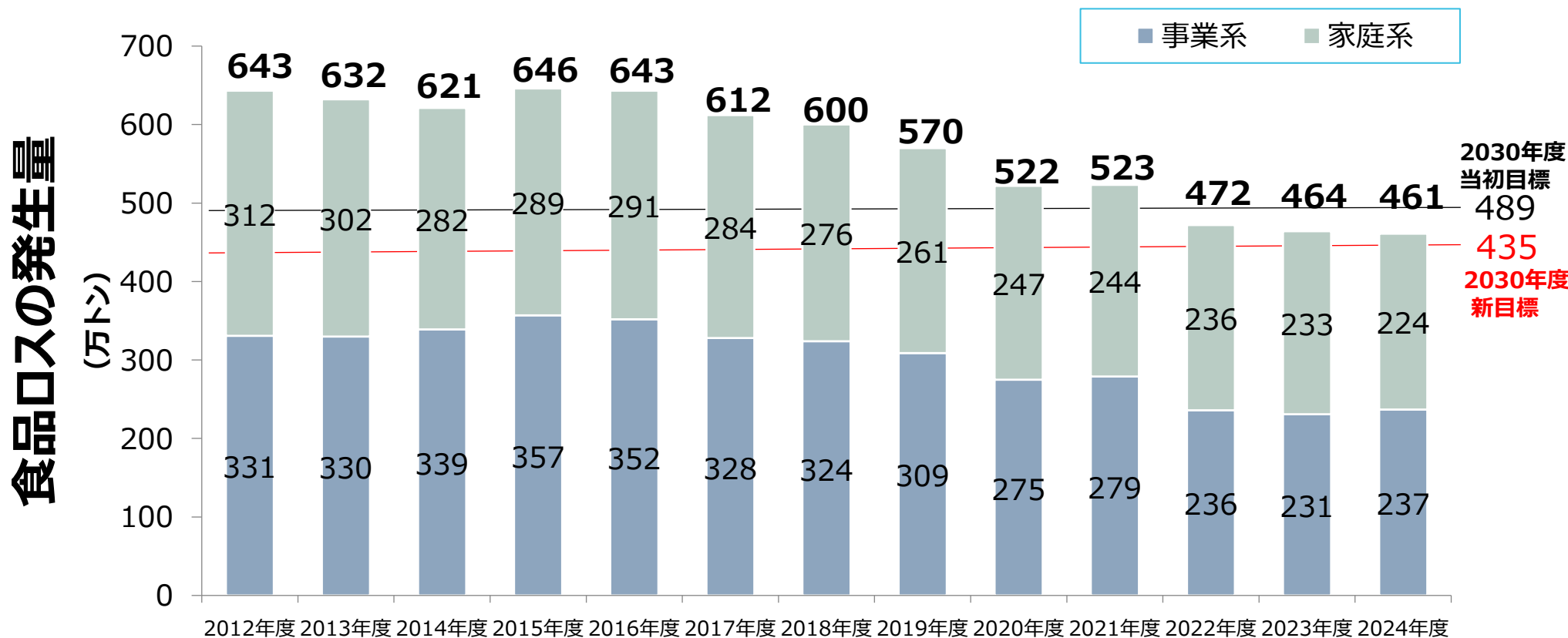


我が国の食品ロスの発生量の推移

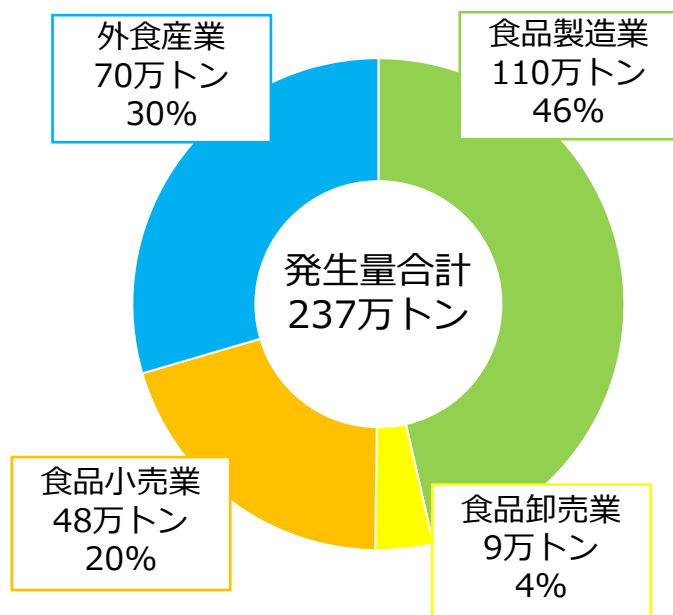
- ✓ 平成24年度より、食品ロスの発生量の詳細な推計を実施
- ✓ 令和6年度は約461万トンと、前年度から約3万トン（約0.6%）減少
- ✓ 内訳は、事業系が約6万トン（約2.6%）増加、家庭系が約9万トン（約3.9%）減少
- ✓ 発生量全体では、2030年度当初目標（2000年度比半減）を達成。
- ✓ 今後、事業系は2000年度比で60%削減、家庭系は半減（2030年度を待たずに早期達成）を目指す。

※2024年度時点での削減率：事業系56.7%、家庭系48.3%



- 我が国の**食品ロスは461万トン** ※農林水産省・環境省「令和6年度推計」
- 食品ロスのうち**事業系は237万トン**、**家庭系は224万トン**であり、食品ロス削減には、事業者、家庭双方の取組が必要。

事業系食品ロス（可食部）の業種別内訳



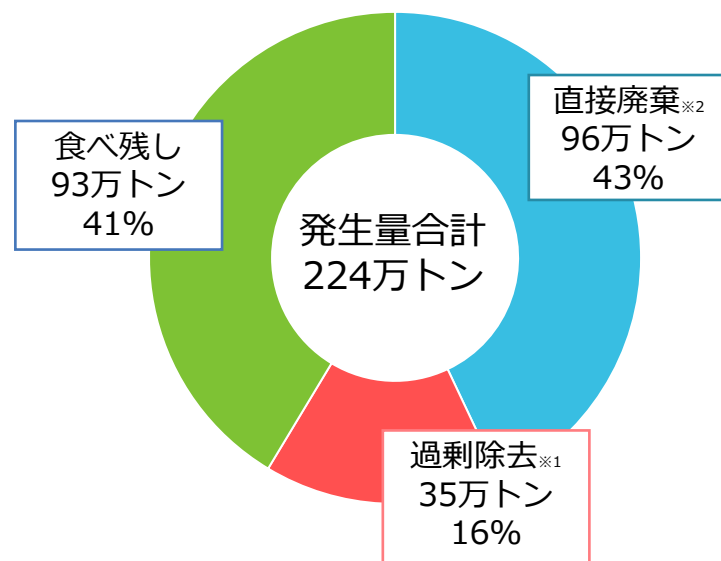
製造・卸・小売事業者

○製造・流通・調理の過程で発生する**規格外品**、**返品**、**売れ残り**などが食品ロスになる

外食事業者

○**作り過ぎ**、**食べ残り**などが食品ロスになる

家庭系食品ロスの内訳



※1：野菜の皮を厚くむき過ぎるなど、食べられる部分が捨てられている

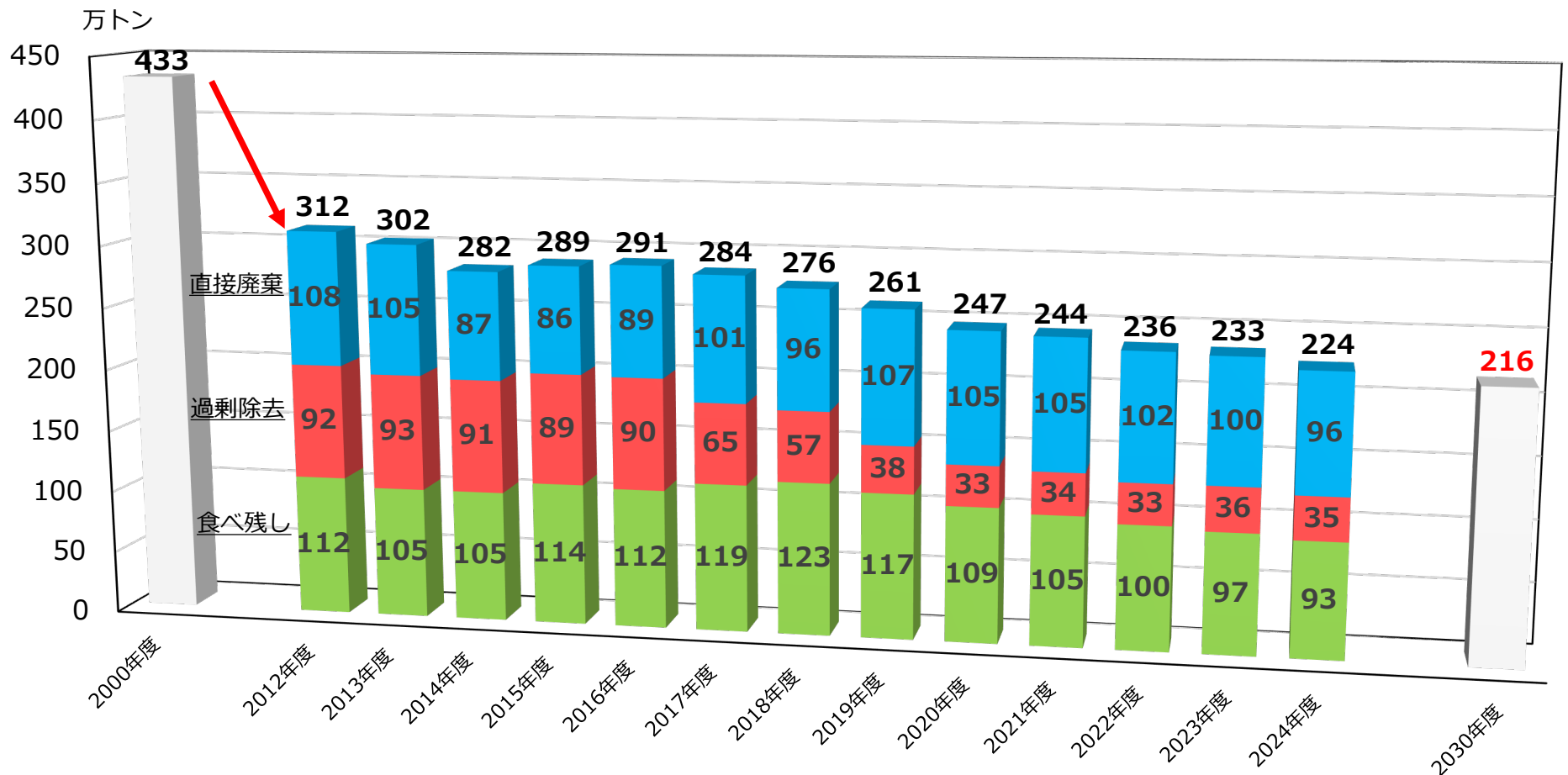
※2：未開封の食品が食べずに捨てられている

家庭系食品ロス量の削減目標と推移

【目標】2000年度(433万トン)比で、2030年度までに半減させる(216万トン)

※2030年度を待たずに早期達成

2012年度以降、全体では減少傾向。近年は全体として減少する中、特に直接廃棄、食べ残しは減少傾向。



事業系食品ロス量の削減目標と推移

【目標】2000年度(547万トン)比で、2030年度までに**60%削減**させる(**219万トン**)

2012年度以降、全体では減少傾向。近年は全体として減少傾向だが、特に外食産業は増加傾向。

